

事業計画書

①団体名	J A 晴れの国岡山 新見花卉部会
②事業名	新見りんどう推しのFanづくりプロジェクト
③テーマ区分	番号:12
④補助回数	*同一事業における補助回数(年数)について、いずれかにチェック
	<input checked="" type="checkbox"/> 1回目 <input type="checkbox"/> 2回目
⑤現状及び課題	<p>(1) 背景 新見市では平成12年からりんどう栽培が始まり、現在ではJ A 晴れの国岡山新見花卉部会(りんどう生産者数:23戸、りんどう栽培面積:4.6ha)として共同選花場を整備し、西日本最大の産地に発展している。しかし、りんどう市場出荷割合を見ると、岩手県など東北地方4県で全国シェアの8割以上が占められており、新見市のりんどうは全国的には極めて生産規模が小さく、生産量も少ない状況にある。</p> <p>(2) 現状 花卉の消費は嗜好品扱いであるため、食料品等の物価が高騰すると、個人消費が低下する傾向があり、常に不安定な消費動向の中で農業経営を継続する必要がある。こうした中で、新見市のりんどうを優先的に扱ってもらうため、これまでに訪花昆虫による受粉や花卉食害防止のためのりんどうほ場へのネット被覆や、東北地方には無い高規格による出荷を行うことで、大産地との差別化を図り、有利販売を模索してきた。しかし、近年では肥料農薬費や輸送費など生産コストが上昇し、花卉生産者への更なる負担として押し掛かっており、さらに夏季の猛暑による生理障害や病害虫の発生などが安定生産の妨げとなっている。</p> <p>(3) 課題 1) 魅力発信 卸売市場や仲卸会社からのアドバイスを受けて、新見りんどうブランドの認知拡大や産地情報の提供のために、新見花卉部会はR7年度からインスタグラムを開設した。しかし、消費者にはまだ十分にアプローチできていないため、生産者が消費者へ直接プロモーション活動を行う必要がある。</p> <p>他産地との差別化や優位性を高めるため、部会では自家交配によるオリジナル品種の育成を行っており、令和6年度までに5品種を実用化し、卸売市場から好評を得ているが、花色や開花期のバリエーションが求められている。 また、近年の気候変動により生理障害などが発生し、生産量が安定しない。</p>
⑥事業目的	<p>新見りんどうの知名度向上や販売促進を図るために、キービジュアルを核として、生産者が消費者へ直接プロモーション活動を行う。 また、新見オリジナルりんどうの新品種を育成し、小規模産地でも大産地との競合に打ち勝つための栽培環境を整備し、独自ブランドを確立する。さらに、異常気象に対応する栽培技術を確立し、安定生産体制を構築する。 これらの取り組みが備中地域の花卉産地のモデルとなり、産地活性化の一助となるように努める。</p>

<p>⑦事業内容</p>	<p>(1) 魅力発信活動 新見りんどうの知名度向上や販売促進を図るために、生産者サイドから消費者へ直接提案型のプロモーション活動を行い、新見りんどうの魅力を消費者へ直接発信していく。</p> <p>1) 新見オリジナルりんどうをプロモーションするためのキービジュアル作成 新進気鋭のデザイナーと協業し、新見りんどうの草丈の長さや鑑賞期間の長さを生かした、生花をちりばめたドレスを作成する。このドレスをプロモーション活動のキービジュアルとし、新見ブランドのシンボルとする。</p> <p>2) 新見りんどうプロモーション活動 キービジュアルとなるドレスを活動の核として活用し、新見りんどうの消費者の認知度の向上、販売力の強化を図る。</p> <p>ア りんどうを使ったドレスの作品発表会 新見市や新見市観光協会と協力し、日本初のりんどうを全身にちりばめたドレスの発表会を開催し、マスコミを通じて大々的に発信する。</p> <p>イ 将来の購入者の育成 新見公立大と協力し、学生向けにドレスの試着や撮影会を開催し、SNSなどでの情報拡散と若者の認知度向上を図る。</p> <p>ウ 広域りんどうフェアの開催 JA晴れの国岡山や集客力の大きいJA直売所と協力して、りんどう記念日（（一社）日本記念日協会により認定・登録）に、JA管内のりんどう産地（井原市美星町、総社市）と共同で広域りんどうフェアを開催する。</p> <p>エ 岡山市花き市場フェアへの参加 岡山市花き地方卸売市場が開催するフェアへ参加し、消費者へ直接働きかける。</p> <p>オ 小売店での新見オリジナルりんどうフェア 広島市内の新見のりんどうを最良とする小売店で消費者向けのフェアを開催する。</p> <p>カ ブライダルフェアへの参加検討 りんどうは仏花としての需要が主であるが、新たな需要創出のために、今後のブライダル産業フェアへの参加を検討し、ドレスのレンタルと合わせたりんどう販売を提案するなど、りんどうの新しい販売形態を開拓する。</p> <p>(2) 新見オリジナルりんどうの新品種を育成し、安定生産技術を確認、増産することで、ブランドを強化する。</p> <p>1) 新品種の育成 ・青色以外の新見オリジナル品種の育成・増殖</p> <p>2) 安定生産体制の確立 ・新見花卉部会での栽培勉強会の実施 ・高温対策のための栽培実証ほの設置</p> <p>*天災地変、感染症等で事業が実施できない場合の対応 ・安全対策に配慮し、規模縮小などを検討する。</p>
<p>⑧事業の条件及び アピールポイント</p>	<p>先進性、先駆性、独創性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新進気鋭のデザイナーと協業する、りんどうの生花をちりばめたドレスの作成は国内初の試みであり、メディアの注目が集まる。 ・鑑賞するものから身にまとうりんどうという体験を提案し、ドレスのレンタルとりんどうの販売をセットで行うことで、りんどうが使われるシーンの拡大や、新しい販売形態を開拓する。 ・生産者が消費者へ直接働きかけることで知名度を上げ、注文販売が増えることで販売力や収益の向上を目指す。 ・岡山県下での花き産地では事例が少ない地域オリジナル品種の育成を他地域に先駆けて実施する。

	<p>備中地域への波及効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A 晴れの国岡山管内のりんどう産地（井原市美星町、総社市等）と共同で広域りんどうフェアを開催することで、新見市以外のりんどう産地の活性化につながる。 ・ 新見オリジナルブランドを確立することができれば、その育成手法を共有し、他の品目や品種でも、備中地域内のローカルブランドを育成することができる。 <p>その他、団体の持つ専門性やノウハウ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新見花卉部会は生産者の高品質生産への意欲が高く、技術向上のための情報交換や技術導入により、西日本最大のりんどう産地として年間約100万本を出荷している。卸売市場から高評価を得ており、りんどう栽培に関する豊富な知見や技術を保持している。 																					
<p>⑨今年度の事業による直接の結果（アウトプット）及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新見りんどうの消費者の認知度の向上、販売力の強化を図るために、発表会やフェアなどのプロモーション活動を行う。 ・ 新見りんどうの魅力をさらに高めるため、花色が青色以外のオリジナル品種の実用化を目指す。 <table border="1" data-bbox="454 801 1402 1030"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>魅力発信活動</td> <td>発表会、フェアなどプロモーション活動開催回数</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>新品種育成数</td> <td>2品種</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	魅力発信活動	発表会、フェアなどプロモーション活動開催回数	5回		新品種育成数	2品種												
評価指標	評価方法	目標																				
魅力発信活動	発表会、フェアなどプロモーション活動開催回数	5回																				
	新品種育成数	2品種																				
<p>⑩今年度に期待される成果・効果（短期アウトカム）及びその評価指標・評価方法</p> <p>※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載</p>	<p>事業参加者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生産者の栽培意欲が向上し、出荷面積が増加する。また、新見ブランドへの意識が高揚し、部会の体制強化につながる。 <table border="1" data-bbox="454 1249 1402 1758"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出荷面積の増加</td> <td>増加面積</td> <td>30 a</td> </tr> <tr> <td>生産者の意識高揚</td> <td>アンケート</td> <td>「りんどう生産への自負が強くなった」回答率75%</td> </tr> <tr> <td>新見オリジナルりんどうの栽培意欲向上</td> <td>アンケート</td> <td>「新見オリジナルりんどうを栽培する意欲が高まった」回答率75%</td> </tr> <tr> <td>購買者のりんどうの興味や購買意欲の向上</td> <td>アンケート</td> <td>「りんどうに興味を持ったや実際に購入してみたい」回答75%</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ プロモーション活動によって消費者の認知度が向上し、注文が増え、新たな用途の提案などにより販路が拡大する。 ・ 生産量の拡大による安定生産体制を整えることができる。 <table border="1" data-bbox="454 1944 1402 2085"> <thead> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価方法</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>販路の拡大</td> <td>新規取扱小売店数</td> <td>3店舗</td> </tr> </tbody> </table>	評価指標	評価方法	目標	出荷面積の増加	増加面積	30 a	生産者の意識高揚	アンケート	「りんどう生産への自負が強くなった」回答率75%	新見オリジナルりんどうの栽培意欲向上	アンケート	「新見オリジナルりんどうを栽培する意欲が高まった」回答率75%	購買者のりんどうの興味や購買意欲の向上	アンケート	「りんどうに興味を持ったや実際に購入してみたい」回答75%	評価指標	評価方法	目標	販路の拡大	新規取扱小売店数	3店舗
評価指標	評価方法	目標																				
出荷面積の増加	増加面積	30 a																				
生産者の意識高揚	アンケート	「りんどう生産への自負が強くなった」回答率75%																				
新見オリジナルりんどうの栽培意欲向上	アンケート	「新見オリジナルりんどうを栽培する意欲が高まった」回答率75%																				
購買者のりんどうの興味や購買意欲の向上	アンケート	「りんどうに興味を持ったや実際に購入してみたい」回答75%																				
評価指標	評価方法	目標																				
販路の拡大	新規取扱小売店数	3店舗																				

	適切な栽培管理の徹底	栽培勉強会実施数	年間5回
	備中地域		
	・備中地域のマイナー品目産地や小規模産地でのブランド確立のモデルとして、取り組み事例を広報し、地域へ波及させる。		
	評価指標	評価方法	目標
	取り組み事例の広報	各種媒体への掲載回数	5回
⑪将来的に期待される成果・効果 (中・長期アウトカム) ※事業が複数の場合は、事業ごとに分けて記載	事業参加者		
	・産地ブランドが確立し、産地間競合で有利な販売を展開できることで販売額の向上が期待され、生産者の生産意欲が高まる。		
	事業実施団体		
	・りんどうの用途が拡大し、様々な販売方法の展開が図られ、市場等への販売力の強化が図られる。		
⑫事業継続化に向けた取組及び事業展開の予定 (資金確保の見通し等)	備中地域		
	・一連のプロモーション活動により備中地域のりんどうの知名度が向上し、新見市以外の産地も活性化する。		
	・ブランドの育成手法を共有し、他の品目や品種でも、備中地域内のローカルブランドを育成することができる。		
	・ブライダル産業フェアへの参加や生産者が行う小売店でのフェアなど、プロモーション活動に継続的に取り組む。		
	・新品種の出荷量が安定するよう、栽培勉強会を継続して行う。		

様式第2号—2(第7条関係)

日 程 計 画 表

年月	事業内容	場所	規模等
8年4月	・本年度事業計画の検討 ・講習会スケジュール、実証ほ設置場所の確認 ・第1回栽培勉強会	JA 新見統括 本部 現地ほ場	8人 20人
8年5月	・事業推進会議(総会) ・第2回栽培勉強会 ・新品種の増殖委託	JA 新見統括 本部 現地ほ場	20人 20人
8年6月	・キービジュアル(ドレス)発表会 ・第3回栽培勉強会 ・実証ほ設置、調査開始	新見市役所 現地ほ場 現地ほ場	 20人 20人
8年7月	・学生向けドレス試着、撮影会 ・中間検討会(役員会)	新見公立大 JA 新見統括 本部	 8人
8年8月	・広域りんどうフェア	総社市	
8年10月	・オリジナルりんどうフェア ・第4回栽培勉強会	広島県小売 店 現地ほ場	 20人
8年11月	・岡山市花き市場フェア ・第5回栽培勉強会	岡山市花き 地方卸売市 場 現地ほ場	 20人
8年12月	・事業推進会議(役員会)	JA 新見統括 本部	8人
8年2月	・8年度事業とりまとめ、9年度活動計画検討	JA 新見統括 本部	8人

<記入上の注意事項>

- 1 事業実施年度の年間スケジュール案を記入してください。
- 2 「場所」欄は、想定される実施場所を記入してください(例:〇〇市文化センター、△△市内)。不明な場合、特定できない場合等は未記入で構いません。
- 3 「規模等」欄は、参加予定人数、印刷部数等数量的に想定される量を記入してください。不明な場合は未記入で構いません。